ダイビングが教えてくれた新しい世界

私がはじめてダイビングをしたのは、10年前にオーストラリアのケアンズを旅したときです。ケアンズの美しく透明な海は、水中に潜らずとも、水上から見るだけで、色鮮やかな魚たちが泳いでいるのがわかる程でした。

そもそもダイビングなどするつもりはなかったのですが、青い空と青い海、その間の水平線を見つめていると、「この地球に生まれてよかった」と心の底から思えてきたのです。大げさかもしれないけれど、本当にそう思えたのです。そして、身体の中からエネルギーのようなものが湧き上がってきて、今まで危険だと思ってやらなかった「ダイビング」にチャレンジしてみたくなったのです。

ただ、そう思ったからといって、すぐに潜れるわけでもなく、もちろん最初は体験ダイビングに参加したのでした。インストラクターに誘導されて、はじめて訪問した海の中には、地上とはまったく異なる新しい世界が広がっていました。

そこは、美しいというよりも、神聖という表現の方が似合う空間で、外の世界からやって来た私は、侵入者のような罪悪感さえ覚えたのでした。海に潜ってしばらくは、恐怖にも似た海の威厳に圧倒されっぱなしだったのですが、時間が経って慣れてくると、海が自分を受け入れてくれたような気分になり、海が慈愛に満ちたものに思えてきたのです。海と対話できたその瞬間から、私はダイビングにはまっていきました。

ダイビングをはじめて10年。私にとって海は、心身にたまった毒素を取り除いてくれる偉大なドクターのような存在です。青い海に潜って、魚たちと泳ぎ、海面から差し込む陽光を見上げるとき、汚れた何かが自分の中から溶け出していくのを実感するのです。

地上の生活に疲れたときに、海の中に潜ると、自分が再生していくのです。

ダイビングの楽しみ方は人それぞれ違いますが、私にとってのダイビングの最大の喜びは、新しい世界、新しい自分に出会えること、それに尽きます。